

アナフィラキシーショック時の対応

症状・診断

▶ 以下の3項目のうちいずれかに該当すればアナフィラキシーと診断する。

1. 皮膚症状(全身の発疹、痒痒または紅潮)、または粘膜症状(口唇・舌・口蓋垂の腫脹など)のいずれかが存在し、急速に(数分~数時間以内)発現する症状で、かつ下記a、bの少なくとも1つを伴う。

さらに、少なくとも右の1つを伴う

皮膚・粘膜症状 a. 呼吸器症状 (呼吸困難、気道狭窄、喘鳴、低酸素血症) b. 循環器症状 (血圧低下、意識障害)

2. 一般的にアレルゲンとなりうるものへの曝露の後、急速に(数分~数時間以内)発現する以下の症状のうち、2つ以上を伴う。

a. 皮膚・粘膜症状 (全身の発疹、痒痒、紅潮、浮腫) b. 呼吸器症状 (呼吸困難、気道狭窄、喘鳴、低酸素血症) c. 循環器症状 (血圧低下、意識障害) d. 持続する消化器症状 (腹部痙攣、嘔吐)

3. 当該患者におけるアレルゲンへの曝露後の急速な(数分~数時間以内)血圧低下。

収縮期血圧低下の定義：平常時血圧の70%未満または下記

生後1か月~11か月 < 70mmHg
1~10歳 < 70mmHg + (2 × 年齢)
11歳~成人 < 90mmHg

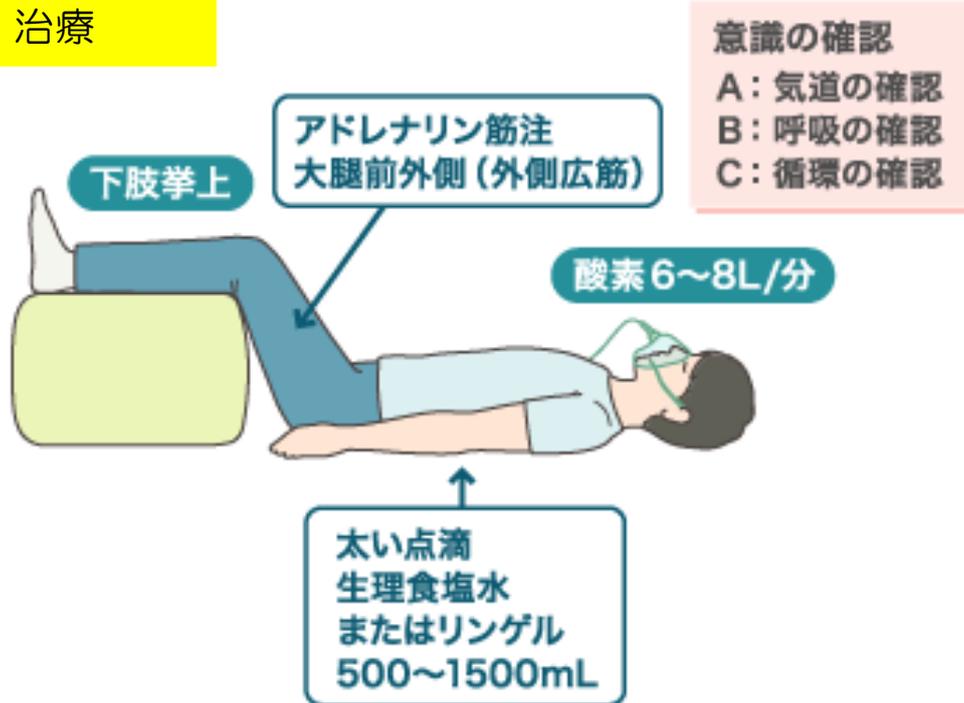
血圧低下



■ 臨床所見による重症度分類

		グレード1 (軽症)	グレード2 (中等症)	グレード3 (重症)
皮膚・粘膜症状	紅斑・蕁麻疹・ 膨疹	部分的	全身性	←
	痒痒	軽い痒痒(自制内)	強い痒痒(自制外)	←
	口唇、眼瞼腫脹	部分的	顔全体の腫れ	←
消化器症状	口腔内、咽頭違和感	口、のどのかゆみ、 違和感	咽頭痛	←
	腹痛	弱い腹痛	強い腹痛(自制内)	持続する強い腹痛 (自制外)
	嘔吐・下痢	嘔気、 単回の嘔吐・下痢	複数回の嘔吐・下痢	繰り返す嘔吐・便失禁
呼吸器症状	咳嗽、鼻汁、 鼻閉、くしゃみ	間欠的な咳嗽、鼻汁、 鼻閉、くしゃみ	断続的な咳嗽	持続する強い咳き込み、 犬吠様咳嗽
	喘鳴、呼吸困難	—	聴診上の喘鳴、 軽い息苦しさ	明らかな喘鳴、呼吸困難、 チアノーゼ、呼吸停止、 SpO ₂ ≤ 92%、締めつけられる感、 嚔声、嚔下困難
循環器症状	脈拍、血圧	—	頻脈(+15回/分)、 血圧軽度低下、蒼白	不整脈、血圧低下、 重度徐脈、心停止
神経症状	意識状態	元気がない	眠気、軽度頭痛、 恐怖感	ぐったり、不穏、 失禁、意識消失

治療



重症者（グレード3）への第一選択薬

- アドレナリン（ボスミン） **0.3mg (=0.3mL)** 筋注
- **絶対静注しないこと！**
- 症状が持続する場合は5~15分ごとに再投与する



打つ場所の再確認



太腿の付け根と膝の中央のやや外側に注射する。

介助者がいる場合



介助者は太腿の付け根と膝をしっかり固定する。

衣服の上からでも打つことができる。